

ある少女の未解決事件

スシミタ・マナンダール（ネパール）

2018年7月26日、ネパール西端に位置するカンチャンプル郡に住む13歳の少女ニルマラ・パントは、宿題をするため自転車に乗って友人の家に行きました。しかし、その中学生のニルマラが帰宅することは永遠にありませんでした。日雇い労働者である彼女の両親は警察に行き娘の捜索を依頼しましたが、警察はそれを軽視しました。そして翌日7月27日にニルマラの遺体がサトウキビ畑で発見されたのです。彼女はレイプされ、残酷にも殺害されていました。カンチャンプル郡で始まった抗議活動は全国に広がり、人々は警察の過失に対する措置と加害者の逮捕を求めました。さらに、警察官が非倫理的な行為に関与しており、この残忍なレイプ殺人の容疑者であることがわかりました。ソーシャルメディアで拡散された犯罪現場の録画ビデオに、警察官がニルマラのズボンを洗って彼女の身体を覆うのが映っていたのです。地区管理事務所は、人々の高まる抗議活動の騒乱を抑えるために無期限の夜間外出禁止令を発令しましたが、警察の発砲により14歳の少年が死亡、さらに5人の成人が負傷する事態を招きました。ニルマラへの正義（#JusticeForNirmala）を求めたこの全国的な抗議活動は中央政府まで波及し、人々は加害者に対する措置を要求しました。地元の人々は、2人の「要人」が関与している証拠が見つかったため、警察は事件の調査に消極的だったのではないかと話しています。高等調査委員会が設置され、国家人権委員会の中央調査局も調査を行いました。加害者の特定や逮捕にはほど遠い状況でした。さらに、情報通信大臣が、5つの国営メディアすべての編集者を個人的に召喚し、ニルマラのレイプ殺人事件に関連するニュースを公開しないよう指示までしていたのです。



写真：Bikash Rai

最近、ネパール内において、特にタライ地域ではレイプ事件がかなり増加しています。なぜなら、加害者は無罪放免で得しただけになることが多いからです。これらのケースのほとんどが、被害者側にきせられた社会的汚名や当局の怠慢などにより未解決のままになっています。被害者は強姦者との結婚を強要されるか、和解を強制されるか、場合によっては地元の有力者の力で訴訟を取り下げさせられることもあります。今ネパールでは毎日5件のレイプ事件が報告されています（ネパール警察のデータ）。

ネパール憲法は性暴力の加害者に対して最高刑を課しています。しかし、レイプの報告件数は増加するのに、有罪判決がでる確率は低いままです。2016/17年にネパール警察は

1,138 件のレイプ事件を記録し、1,440 人の容疑者に対する告訴状を該当する地方裁判所に提出しました。そのうち、法務長官室の年次報告書に記載される有罪判決を受けたのは 885 人のみでした。この有罪判決率の低さが転じて犯罪の増加につながっているのではないかと警察は述べています。

権利団体が実施した調査は、「女性と子供に対する暴力」がネパールの安全保障における主要な問題の 1 つであると示しています。そのため、国家人権委員会は、女性に対する暴力 (VAW) を最小限に抑え、人権を擁護するため、ネパール警察の役割を監視しています。しかし、ニルマラ・パントの事件はまだ解決していません。ニルマラのような被害者は多くいるのに、その事件は報告されず、世界が彼女達の人生やその死を知ることはありません。ここ最近、人々はレイプ犯に対し極刑を求めています。ネパール政府は 1990 年に死刑を廃止しています。ネパール政府は法の抜け道をふさぎ、被害者に対するセーフティネットを提供できるように法律を改定する必要があります。もし、ネパールで極刑を復活させるべきかどうかの議論が行われるとしたら、ネパールの女性は満場一致でそれを支持するでしょう。しかし、その判決は意思決定の立場にある封建主義的人物の手にゆだねられています。おそらくその決定は女性にとって好ましいものではないでしょう。